

つながる鎌倉エール事業スタートアップコース報告会
令和4年度実施事業 各取組の講評

**1 明月川の清掃・生態系保全及び明月谷の環境保全
(明月川・谷戸の会)**

- 地域の環境保全活動は、地域住民に好影響を与える活動であり、取組内容は評価できる。
- 一方で、活動に関する許認可の問題（河川での活動や枯れ木の伐採等）に一部不安を感じた。活動者の危険に備えたりリスク管理（保険への加入等）や、事故が発生した際の責任の所在を明確にしておいたほうがよい。（怪我をしたり物を壊してしまったり、自分達が加害者になる可能性があることを念頭に）
- プレゼンからは、団体の中の他の活動者の顔が見えなかった。メンバーとともに活動し、そして共有していく思考が団体内の協力関係の構築と活動の継続性のために必要。
- エール事業の趣旨から、できるだけ多くのメンバーに参加してもらえるように活動の輪を広げつつ、地元住民などを多く活動に巻き込む視点が求められる。それが団体や活動の継続につながっていく。

**2 ひなたぼっこ～不登校の子や親のための居場所づくり～
(西鎌みんなの家)**

- 様々な人の連携・協力を得ながら活動をすすめていることが評価できる。
- 実際に不登校の子どもの様子が良い方向に変わっていったことはよいことで、継続して実施したからこそ生まれたものであると評価できる。
- 人件費を課題としてあげていたが、「今後どのように活動を継続させていくか」を具体的に検討できていないことは注意が必要。活動が存続できなくなってしまう可能性もあり、どのように資金的に維持していくかを、メンバー間でコミュニケーションをとりながらしっかり検討してほしい。
- 子どもたちに居場所を提供した実績を踏まえ、未永く継続して取り組むための方法を模索してほしい。（安心できる場を提供した事実は、反対に取組が継続できないと、こどもたちから居場所を奪ってしまうことに間接的につながってしまうため）

**3 鎌倉竹部 広報活動（竹を地域資源に変える活動）
(鎌倉竹部)**

- メンバーが主体的にかつ楽しそうに（充実しながら）活動しているのは好感がもてる。様々な年代の方が参加し、巻き込みながら活動していることも評価できる。
- 他団体や市民、企業とのコラボをしているため、活動の将来性がある。課題解決のための取組を行っている。
- これから活動が盛り上がっていく中で、メンバー間での活動に対して取り組んでいく意識や姿勢の乖離が生まれることがよくあるので、メンバー間でのコミュニケーションを大切にして活動を継続してほしい。今がその過渡期と思われるので注意が必要。
- メンバーのほとんどが個人事業主として活動していきたい印象を受けたので、団体としてどう進んでいくかを検討してほしい。地域を巻き込んで継続して行っていく姿勢はぜひ継続してほしい

★令和4年度スタートアップコース全体の総評

①活動の成果

スタートアップコース全体を通じて、活動そのものは地域に好影響を及ぼすものであり、かつ確実に成果が上がっていた。また、真摯にかつ熱心に事業に取り組んでいる様子をうかがうことができた。

②つながる鎌倉エール事業の趣旨への理解

つながる鎌倉エール事業の、「市民活動団体が地域の担い手として活動を継続し、いずれ協働のパートナーとしてまちづくりに取り組む団体を育成する」という趣旨に則り、地域住民や取組場所の利用者など、多くの市民と関わり、巻き込んでいくことが重要である。その趣旨を理解いただき、実質的な個人の活動で終結せず、活動の継続や波及を意識した工夫が求められる。

③報告会は、報告団体同士が交流できたり、スキルアップできる場になると良い

つながる鎌倉エール事業の報告会に関しては、単に団体が事業の報告を委員に対して行うだけでなく、報告団体同士の交流を促す場を兼ねるような場となってもよいかもしれない。

他市の事例では、報告団体は全ての団体の報告を見学し、団体に対して質問もできる。

他の団体の報告を見学することで、事業内容やプレゼンの仕方などに新たな気づきを得られ、団体のスキルアップにつながることもあるだろう。検討の余地がある。